

# 道路維持 補修工事

# 早期着手で、計画的な維持を



流山市議会議員

小田桐たかし

市長による職員・経費の削減下、生活基盤を支える必要な公共工事に亀裂が走っています。また、人口20万6千人（8万6千世帯）に対し、市職員の土木技師は77人、建築技師は31人では、災害時の被災住宅診断等に大きな支障をきたします。

道路補修は、年度初めから早期着手し、計画的な維持ができるよう政治の役割が欠かせません。



小田桐市議が市へ要望し実現した道路補修工事（東初石1・2丁目）

一方、市長は正規職員の不補充を強行。さらに財政圧縮を理由に「道路維持補修に要する経費」は増額されず、道路の痛みが市内各地で散見されてきました。

日本共産党市議団では、市議会予算・決算特別委員会で改善を繰り返し提案。R4年度は、

前年度比約1億5千万円増、5年で1.7倍化を実現しました。しかも、その事業費100%が、市内事業者へ発注され、雇用や資器材調達など市内の地域経済循環に役立つとともに、災害時の車両や人員の確保にも活かされています。

TX沿線での区画整理事業に伴い、市内では道路延長が増大。市道では、H29年度66.5万㎡から、R2年度では67.2万㎡になっていきます。

## 5年で1.7倍化

年度	道路維持補修に要する経費
H29	2億5千4百万円
H30	2億6千万円
R1	3億円
R2	3億1千3百万円
R3	3億1百万円
R4	4億4千8百万円

人口急増は、通過交通車両の増加や商業車両の急増も意味します。そのため、市内各地で道路のひび割れや凹凸が発生し、修繕等の遅れが目立っています。

# 安全な勤務環境の保障を

## 救急隊へのPCR検査 廃止 公立保育士への防疫手当 支給改悪

議会も知らぬ間に  
制度廃止

議会説明も虚偽？

R3年度当初予算の新規事業となった救急隊へのPCR検査（79万2千円）。「職員や家族からの強い要望」が制度創設のキッカケです。

ところが、R4年度予算委員会で、岡明彦市議（公明）の質疑に、R4年度の予算化せず、さらにはR3年度9月末で制度を廃止していたことが発覚しました。

小田桐市議は、制度廃止に抗議し、復活を強く要望。昨年夏「第5波」の感染者増加を受け、検査をした救急隊員は279人、経費は613万8千円となったことから制度を廃止していた事が分かりました。小田桐市議の質疑に、「今事業で隊員の陽性者は確認されていない」を廃止を正当化しましたが、財政圧縮が根本理由です。

財政圧縮を背景に、削減した施策は…市職員の防疫手当（1日1回330円を作業内容に応じ3千円または、4千円に改定（R2年2月6日以降））にも。条例改定を審査した委員会では、感染者への直接対応以外に、「病原体が付着しているおそれのある物件の消毒作業等が該当」と回答していました。

しかし実際は、公立保育所の感染拡大・相次ぐ休園のことで、公立保育士の消毒作業が増加。財政圧縮を目的に、市長が一方的に対象を狭め、防疫手当の支給をしていません。

小田桐市議は、公立保育士への防疫手当支給の実施を要求するとともに、私立保育園保育士やごみ収集従事者等への危険手当支給を提起し、市長提案の予算への修正動議を提案しました。

担当課	対象延べ人数	防疫手当支給総額
消防署	848人	325万9千円
保育課	76人	25万6千円
健康増進課 (保健センター)	57人	17万2千円
介護支援課	13人	4万1千円
高齢者支援課	1人	3千円
合計	995人	373万1千円

※高齢者・介護施設、保育園でクラスターや休園が相次ぐも「手当」はたったこれ（公務員限定、しかも対象作業の縮小）だけ…730億円の予算を持つ市役所として、市民の安全・安心への軽視や、いのちと健康を守る気概の欠如があるのではないのでしょうか…